

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、1月の予察情報を送付します。

病害虫発生予報（1月）

令和7年12月26日
愛媛県

1 予報の概要

作物名	病害虫名	発生量	その他
冬春きゅうり （促成栽培）	黄化えそ病 べと病 褐斑病 うどんこ病 灰色かび病 タバココナジラミ オンシツコナジラミ	並～やや多 やや多～多 並～やや多 並 並～やや多 やや多 やや多	
冬春トマト	灰色かび病 タバココナジラミ オンシツコナジラミ	並～やや多 やや多 やや多	
冬春いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 タバココナジラミ オンシツコナジラミ	並～やや多 並～やや多 やや多 多 やや多	

2 気象予報（高松地方気象台）

1か月予報（令和7年12月18日発表）の解説
向こう1か月の天候の見通し 四国地方（12月20日～1月19日）

＜ 1か月の平均気温・降水量・日照時間 ＞

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
四国地方	低 20 並 30 高 50% 高い見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か 多い 見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か 少ない 見込み

＜ 予報のポイント ＞

寒気の影響を受けにくいとため、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなるでしょう。

低気圧の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は、平年並か少ないでしょう。

3 病害虫の発生予想

野 菜

(1) 黄化えそ病（冬春きゅうり）

ア 予報の内容 発生量：促成栽培 並～やや多

イ 予報の根拠

(ア) 12月中旬の促成栽培の調査では、発生を認めていない。また、媒介虫のミナミキイロアザミウマの発生も認めていない。

(イ) 気象予報では、気温は高いとされており、媒介虫のミナミキイロアザミウマの発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) 発病株は直ちに抜き取り、適正に処分する。

(イ) 媒介虫の卵・蛹には薬剤の効果が悪るので、発生圃場では、発生に応じて2～3回、連続散布する。

(ウ) 媒介虫は雑草等でも増殖するので、除草を行う。

(2) ベと病（冬春きゅうり）

ア 予報の内容 発生量：促成栽培 やや多～多

イ 予報の根拠

(ア) 12月中旬の促成栽培の調査では、発生はやや多である。

(イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並が多いとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) ハウス内の換気を行い、多湿を防止する。

(イ) 成り疲れ、肥切れは発病を助長するので、適正な肥培管理に努める。

(ウ) 老化葉や発病葉は早めに除去する。

(エ) 発病初期の防除に重点を置き、薬液が葉裏の菌叢にかかるように散布する。

(3) 褐斑病（冬春きゅうり）

ア 予報の内容 発生量：促成栽培 並～やや多

イ 予報の根拠

(ア) 12月中旬の促成栽培の調査では、発生を認めていない。

(イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並が多いとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) ハウス内の換気を行い、多湿を防止する。

(イ) 草勢低下、窒素肥料の過剰は発病を助長するので、適正な肥培管理に努める。

(ウ) 老化葉や発病葉は早めに除去する。

(エ) 発病初期の防除に重点を置き、薬液が葉裏までかかるように散布する。

(4) うどんこ病（冬春きゅうり）

ア 予報の内容 発生量：促成栽培 並

イ 予報の根拠

(ア) 12月中旬の促成栽培の調査では、発生を認めていない。

(イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並が多いとされており、現在の発生傾向が続くものとみられる。

ウ 防除上の注意

(ア) 老化葉や著しく発病した葉を除去し、伝染源の除去と薬剤の付着性を高める。

(イ) 薬剤散布に当たっては、展着剤を加用し、葉表だけでなく葉裏にも薬液が付着するように散布する。

(5) うどんこ病（冬春いちご）

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

イ 予報の根拠

(ア) 12月中旬の調査では、発病葉率は平年並、発病果率はやや少の発生である。

(イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並が多いとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) 発病葉・果実や古葉はできる限り除去し、伝染源の除去、通風の確保と薬剤の付着性を高める。

(イ) 今後、果実発病が中心となってくるため、発病初期の防除に重点を置く。

(ウ) 窒素過多を避けるとともに肥切れさせないように、適正な管理に努める。

(6) 灰色かび病（冬春トマト、冬春きゅうり、冬春いちご）

ア 予報の内容 発生量：冬春トマト 並～やや多
冬春きゅうり（促成栽培） 並～やや多
冬春いちご 並～やや多

イ 予報の根拠

(ア) 12月中旬の調査では、発生は冬春いちごでは平年並、冬春トマト、冬春きゅうり（促成栽培）では発生を認めていない。

(イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並が多いとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) ハウス内の換気を行い、多湿を防止する。

(イ) 過繁茂や軟弱な生育は発病を助長するので、適正な灌水や肥培管理に努める。

(ウ) 果実に付着した花卉・発病果・枯死茎葉は早めに除去する。

(7) ハダニ類（冬春いちご）

（令和7年12月26日付け 令和7年度病害虫防除技術情報（第7号）参照）

(8) アブラムシ類（冬春いちご）

ア 予報の内容 発生量：やや多

イ 予報の根拠

(ア) 12月中旬の調査では、発生は平年並である。

(イ) 気象予報では、気温は高いとされており、発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) 圃場観察により早期発見に努め、発生が見られたら早めに防除する。

(イ) 薬剤の選択に当たっては、ミツバチ等への影響を考慮する。また、天敵を導入している圃場では、活動に影響の少ない薬剤を選択する。

(9) コナジラミ類（冬春トマト、冬春いちご、冬春きゅうり）

ア 予報の内容

発生量：冬春トマト タバココナジラミ やや多 オンシツコナジラミ やや多

冬春いちご タバココナジラミ 多 オンシツコナジラミ やや多

冬春きゅうり タバココナジラミ やや多 オンシツコナジラミ やや多

イ 予報の根拠

(ア) 12月中旬の調査では、タバココナジラミは発生は冬春きゅうりでは認めておらず、冬春トマトで平年並、冬春いちごでやや多である。オンシツコナジラミは発生は冬春きゅうり、冬春トマトでは認めていないが、冬春いちごでは平年並である。

(イ) 気象予報では、気温は高いとされており、発生に助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) 薬剤の散布に当たっては、葉裏にも薬剤が付着するように散布する。

(イ) 本虫は、多くの植物に寄生するため、ハウス内の除草を行う。

(ウ) タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介するので発生に注意する。

(エ) 今後定植予定のハウスでは、コナジラミ類のハウス内への侵入・分散を防ぐため、ハウス開口部に防虫ネット（目合い 0.4mm 以下が望ましい）を設置する。また、紫外線除去フィルムを組み合わせるとさらに効果的である。

【病害虫発生予察情報】

愛媛県病害虫防除所ホームページでご覧になれます。

ホームページアドレスは、<https://www.pref.ehime.jp/site/byocyubojo/>

【農薬使用時の注意】

◎農薬の選定にあたっては、農薬取締法に基づき登録された農薬から選定しましょう。

◎農作物の安全性を確保するため、農薬の使用にあたっては、適用作物、使用回数、使用時期、使用濃度、使用量、使用方法等の使用基準を遵守しましょう。

◎病害虫等の発生を的確に把握し、適時適切な経済防除に努め、農薬や労力等の低投入を図るとともに、低毒性農薬を使用しましょう。

◎農薬による防除のみに頼らず、耕種的防除法、物理的防除法及び天敵導入等を積極的に取り入れた総合防除を推進しましょう。

◎同一薬剤の連用は耐性菌、抵抗性害虫の出現や助長をまねくので、農薬のローテーション使用を心掛けましょう。

◎農薬の使用にあたっては、当該散布場所の地形、当日の気象、養蚕、養蜂、その他の環境条件を考慮し、周辺環境に影響の少ない薬剤を選定するとともに、危害の未然防止や環境の保全に努め、農薬事故防止対策を徹底しましょう。

◎農薬を使用する際、農薬のラベルに記載された登録内容、使用上の注意事項等を遵守し、農薬の散布にあたっては、農薬の種類に応じた保護具を必ず装着しましょう。